

平成25年度 兵庫県立青雲高等学校 学校評価シート

領域 評価 項目	学校運営														
	開かれた学校づくり			生徒指導			進路指導			教職員の資質向上					
	家庭や地域の人々への情報発信		生徒指導方針の確認と指導体制の推進		生徒の内面の理解を図る指導の工夫		進路指導体制の充実		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上		実践的指導力の向上		計画的を持った研修の実施		
実践目標	学校ホームページや「青雲通信」などの定期的な発行物の充実を図り、学校・家庭・地域との連携を円滑に進める。	オープンハイスクールや保護者授業参観、学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。	安全な学校、より健全な学校の創造を目指し、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を進める。	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加者の増加のための方策を研究・工夫し、帰属意識の涵養を図る。	各学校行事の内容を工夫し、生徒が地域と関わり、貢献できる機会を増やす。	キャンパスカウンセラーと教職員との交流(事例研究会)を設け、生徒理解の共通認識を深める。	「相談室だより」や教育相談に関する掲示物、学校HP等を通して、カウンセラー情報の広報に努める。	定期発送で「進路のしおり」を郵送するとともに、各種説明会等にて情報の提供に努める。	進路指導部と担任が情報を共有しながら、協力して生徒の進路実現を支援する。	関係機関と連携して、インターンシップを実施し、生徒の進路意識を高める。	正規就労の意味や大切さ、就労のしかた等を十分に理解させ、生徒の就労への意識を高める。	スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。	当面する諸課題に対し、生徒指導・教務・教育相談・人権教育・情報図書等の各分掌が全教員対象の研修会を企画し、計画的に実施する。	特別支援教育コーディネーターを軸に研修を進め、教職員全体の支援能力の向上を図る。	
自己評価															
(7.5点)	4.21	4.05	4.11	3.52	3.48	4.01	3.91	4.18	4.09	3.71	3.67	3.65	3.91	3.45	
成果	定期発行者や「青雲通信」などで生徒・家庭に必要な情報を継続的に発信した。 ・学校ホームページについても、内容を常に更新し最新情報の発信に心掛けた。	今年度から保護者授業参観をオープンハイスクールと別日程で実施し、より保護者の要望にお応えできる態勢にした。 ・オープンハイスクールでは、中学生とその保護者などに通信制高校に対する理解や認識を深めていただけ。参加者も年々増加している。	年間を通じて校内での目立った問題行動等はなく、スクーリングも恙なく終了したが、毎回のスクーリング終了後の校内点検で、トイレや空き教室等に喫煙の痕跡が見られたり、迎えの自動車が校門前付近に長時間に亘って駐車し、近隣の住民に迷惑をかけたなど、まだまだ解決すべき問題は多い。	春の交流会や、秋の遠足では予想以上の参加があり、関心の高さが伺えた。文化祭は、10年ぶりの雨天開催となり、生徒、職員とも対応に苦慮したが、その分得るものも大きく、今回の経験を今後多くの場面で生かすことができる良い機会になったと思われる。特に中心的な役割を担った生徒会執行部の生徒達や、各クラブ各クラス企画に係わった生徒達は心地よい達成感を味わったのではないかと。	年に3回、学校周辺の清掃作業を行う青雲クリーン作戦は、地域貢献事業として定着した感があり、要領を熟知しており活動の中心である生徒会執行部のメンバーは、他の参加生徒をよくリードできるようになってきた。一般生徒の参加も少しずつ増えてきており、執行部のメンバーと交流することで、次年度のメンバー候補となるような流れができ、青雲高校がめざす、執行部の「緩やかな世代交代」に繋がっていくとすれば好ましいことである。	今年度から担当カウンセラー3名+スーパーバイザー1名になり、スクールソーシャルワーカーも加わったことで、生徒の悩みに合わせてカウンセラーが選べるようになった。そこで、新任のカウンセラー2名に前期後期それぞれに前向きな研修会の講師にカウンセラーの専門や人柄を知り、生徒へカウンセリングを勧める際の参考にできた。	前期・後期開始前や日程変更時に「相談室だより」を発行し、カウンセリング実施日程を知らせた。また、相談室前に予約状況を掲示し、当日のキャンセルにもすぐに対応できるようにし、青雲校舎の扉にカウンセリングやグループワークの案内を掲示した。学校HPに掲載した「カウンセリング予約状況」も引き続きよく活用されている。	「進路のしおり」は、受験情報や大学説明会、職安などの最新情報を反映させた紙面づくりをした。卒業予定者を対象に進学・就職の現状、具体的な手続きについて説明をした。保護者会、授業参観には、保護者向けの資料を提供した。進路指導室や掲示板上で提供している資料を持ち帰り活用している生徒も多い。	担任が活用できるよう各種受験情報の提供を行い、進路関係の書籍の充実も図った。生徒・保護者を対象に個別の進路相談、面接指導を実施した。就職生には、就職開拓支援員がより具体的に詳細な面談を実施、面接や作文の練習を行った。進路指導室を利用した生徒の情報は担任にフィードバックし、情報の共有を進め、生徒の進路実現を支援する体制を整えた。	「就職セミナー」への参加者が年々増加。特に昨年度のセミナー参加が動機づけとなり、新規学校紹介就職で内定者が出たなど、正規就労への意識の高まりを感じる。就職適性診断を希望する生徒には、外部機関「若者サポートステーション」を紹介した。就職用掲示板の活用も進め、公務員採用情報、「サポステ」「ジョブカフェ」情報などを掲示した。	学校評議員による授業参観は生活体験発表会の参観を兼ねて実施した。管理職による授業教室の巡回は概ね達成できた。今後は授業参観を、各自の面接指導やスクーリングに使用する補助教材等の改善に生かすことができるように計画していく。	本校の実情や課題を把握した上で、各担当が研修会を計画的に実施したところ、概ね全教員及び事務職員が参加し有意義な内容となった。特に、教務、進路指導、情報、教育相談関係は年間を通じて複数回を適時実施した。講師は外部から招聘するものも多く、教員の知識やスキルがレベルアップした。	10月に神戸特別支援学校から、特別支援教育コーディネーターの仁井康彦先生を講師として招聘し、「発達障害のある生徒の支援について」というテーマで研修会を実施した。具体的な支援事例をもとにした話を聞くことができ、職員の特支援教育に対する理解が深まった。		
生徒アンケート	「青雲通信」などの定期的な発行物や学校HPは役に立っていますか。	学校行事や文化祭・クリーン作戦などに参加しましたか。	禁煙指導や校内巡視を通して安全な学校づくりが進められていると思いますか。					キャンパスカウンセラーがいろいろな相談にのってくれることを知っていますか。	「進路のしおり」を読んでいますか。(2・3・4年次のみ)※	トキメキ仕事体験ひよこカレッジについての案内を見えていますか。(2・3・4年次のみ)※	働くことの大切さや仕事の探し方がわかりましたか。(2・3・4年次のみ)※				
生徒評価															
(7.5点)	3.78	2.45	3.27				2.54	2.98		2.09	3.34				
学校関係者	定期的な発行物や学校HP、各種の行事などを通して家庭や地域との連携を深めていると思いますか。		安全で楽しい学校生活を送ることができる環境づくりが進んでいると思いますか。	生徒の内面を理解し、支援する努力がされていると思いますか。											
評価	はい、カラー刷りで読み易く、地域の方々にも学校の取り組みや生徒さんの活躍されている様子が伝わり、親しみ易くなっている、連携をより深めていると思います。 ・青雲通信は写真も多く美しく、青雲高校の生徒さんの多方面での活躍も知ることができました。 ・文化祭を学校の最大行事とお聞きしました。文化祭を通じて地域との連携を深めておられると思います。		努力をしていらっしゃるのわかります。生徒会との連携で生徒一人ひとりの自覚を促す工夫もいるかもしれません。 ・思います。特に災害発生時の避難場所、避難方法を周知徹底させていたきたいです。5月だけでなく、後期の始まるのホームルームでも説明し、確認作業を行われてはいかがでしょうか。 ・年間行事報告をお伺いし、ここ3年～6年前に立ち上げられた項目をお伺いし、努力されていると思いました。	・カウンセラーも多く配置され、支援の体制が充実してきたのではないのでしょうか?カウンセラーから教員の方が研修を受けられるなど、努力なさっていると思います。 ・強く思います。いろいろな事情を抱えた生徒さんが在学されている学校です。その指導や支援も多様であるにもかかわらず、担任の先生、教科の先生、クラブの先生、それぞれの立場で努力されていると思います。 ・精神的にも、環境的にも、大変な生徒さんが多い中、生徒の立場に立って寄り添い、見守り、暖かく接しておられると思います。											

平成25年度 兵庫県立青雲高等学校 学校評価シート

<p>今後の方策</p>	<p>・青雲通信の内容をさらに精査して、生徒や保護者などに青雲高校に対する理解をより深めてもらう。</p>	<p>1年次生保護者会においては、新入学生が学校生活に適應し、意欲的に活動できるための一助となる有意義なものにしたい。各学校行事については、生徒同士や生徒・保護者と教師、また学校と地域社会とのつながりを強くするために、内容の充実を図り、参加者を増やす工夫をする必要がある。特に、生徒同士の人間関係が希薄な通信制高校にとっては行事が果たす役割は大きい。</p>	<p>校門付近に駐停車する家族や友人の自動車については、ポスターや配布物等での注意喚起を継続し、警察との連携も密にする。校内での問題行動については、年次の担任団と連携し、対象生徒が特定できれば個別指導を行う。内容によっては、生徒に保護者同伴での来校を求め、年次と連携して指導に当たる。</p>	<p>今年度の取り組みを検証し、来年度以降に生かすことができる方策や、対処の仕方等をできる限り計画の段階から要項等に織り込むようにする。</p>	<p>引き続き安全面での配慮を怠らず、学校周辺地域の清掃活動を恒例行事として位置づけ、生徒会執行部以外の生徒の参加者が増加するよう、広報活動を活発に行う。</p>	<p>今年度から始めたグループ活動と、スクールソーシャルワーカーによるカウンセリングの充実に取り組む。そのためには職員研修で教員がその有用性について知ることが重要であるため、キャンパスカウンセラーやスーパーバイザーと連携してより効果的な研修を企画していきたい。</p>	<p>「相談室だより」にカウンセラーからのお知らせを載せるなど、生徒が親しみやすいものにした。また来年度より、いじめアンケートを兼ねた生徒調査を実施する計画があるので、そこからいじめや不登校、友達や家族との関係などの問題を抱えた生徒を抽出できるようになる予定である。その中からカウンセリングが必要と思われる生徒に個別に勧めるなど、生徒が教育相談を受ける機会を増やしたい。</p>	<p>進路指導室のさらなる充実を図り、生徒のキャリアデザインを支援していく。そのために、受験や高卒求人者の最新情報の発信につとめる。「進路のしおり」も生徒の目に止まりやすい紙面づくりを考え、発行していく。</p>	<p>担任と連携しての進路相談を継続実施し、生徒の進路実現を支援していく。</p>	<p>ハローワーク体験ツアー、トキメキ仕事体験ひょうごカレッジを継続実施する。</p>	<p>就労についての生徒相談を実施し、粘り強く求職活動を支援していく。</p>			
--------------	---	---	--	--	---	--	---	--	---	---	---	--	--	--

※集計の都合で、生徒評価のグラフには1年次生のデータ(無回答)が入っています。

平成25年度 兵庫県立青雲高等学校 学校評価シート

領域	学校運営						課題教育						
	危機管理体制の整備			基礎・基本の定着			事務部と教職員との連携		安全・健康教育		人権教育		新しい通信制教育
項目	実効ある学校マニュアルの策定	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	生徒の学力の把握と評価基準の設定			事務部と教職員との連携による生徒支援の充実		事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める	健康に関する認識を高める取組み	人権教育推進体制への取組		インターネットの活用による新しい通信制教育の実現
実践目標	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。	通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制を検討・工夫し、防犯に対する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組を行う。	災害発生時に生徒が的確に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。	防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにしたHR指導が行えるようにする。	本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指した学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。		事務部と教職員が連携し、環境への配慮をしながら教育活動を進める。	学校徴収金の徴収をはじめ、レポート・定期発送の受け渡しや各種の事務手続きについて事務部と教職員の連携を密にし、生徒の学習が順調に進むよう支援する。	安全点検を定期的に行い、救急処置などの安全教育の研修会等を実施する。	健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図るとともに、保健室利用者への丁寧な対応に努める。	長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進める。	多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部・各教科と緊密な関係をとり、生徒一人ひとりを大切に人権教育推進体制を構築する。	Seiun-Webスクールや青雲eラーニングを使い、生徒の学習支援を進める。
自己評価													
(5点)	3.45	3.22	2.99	3.16	3.75		3.39	3.82	3.91	3.72	3.52	3.55	3.67
成果	昨年度、総務部と保健部がタイアップし、他校の資料等も取り寄せ研究のうえ、本校の実情にあったマニュアルが作成された。今後、本校や地域の実態に合わせて適宜見直しを図り、より実効性の高いものにしていく。	関係機関との連携については体制はしっかりできてきているものの、家庭や地域との連携による危機管理体制については課題が残る。通信制高校ということで、どうしても家庭や地域との繋がりが希薄になりがちだが、今後、それらについて何らかの有効な手段が必要とされる。	年度当初に、防災管理組織とその任務を全職員で確認した。また、5月のホームルームで「避難時の注意」のプリントを使用して生徒に説明し、災害発生時の避難について確認を行った。ホームルーム欠席者には、「避難時の注意」プリントを定例発送に同封して通知した。	昨年度は、長田警察から講師を招聘し、交通安全に関する修会を実施したが、今年は「インターネット社会がもたらす生活への影響や危険性について」というテーマで、スマホの普及によって、若者が受けやすい被害や実態について研修を実施した。昨年と違い、命の大切さという観点ではなかったが、より現実的に日常生活で自分を守る上で、意味のあるHRとなった。	基礎学力の定着を目指した入門科目を実施しつつ、生徒の実態に合わせて、レポートの問いかけ、解答方法、テスト問題などの内容に検討を加えている。特に現在、教育課程の変わり目であるため、レポート内容の検討も各教科で意欲的に進められており、期待ができる。その傾向が自己評価のポイントアップにつながったと考えられる。		空調機の果設定温度の遵守・デマンド警報発令時の節電・印刷部数の見直しによる排紙の削減・裏紙利用の促進等、環境率先行動計画(ステップ4)の全庁目標達成に向けて職員一同で取り組めた。	事務長だけでなく、交代ではあるが事務室職員も職員会議に出席した。これにより、積極的に校務運営に参画できるようになったとともに、各部からの報告事項なども直接聞けるようになり学校の情勢について理解を深めた。	毎月安全点検を行い、良好な学習環境の整備に努めた。不良箇所については事務室が迅速に対応し、不適箇所の整備が行われた。神戸市消防局市民防災総合センターと連携して職員対象の普通救命講習を実施した。また、職員はスクーリング時にQマスク(人工呼吸用携帯マスク)を携帯し、万一のための救急処置が取れるように努めている。	「保健だより」を通じて、生徒の健康への関心を高めるように努めた。今年度も胸部レントゲン間接撮影に関しては、1年次生以外にも自費による受診機会を設けた。健康診断が6月に実施されたためか受診率は昨年度に比べ、1・2・3年次生は若干減少した。健康診断終了後は、個別に治療勧告を行った。保健室利用の生徒に対しては、丁寧な対応に努めた。	近通研人権部会での参加校のテーマを参考に、人権HRの内容を4年サイクルで固定することを検討した。過去3年間のテーマ「働く私達の人権」「人権と防災」「デートDV」に続き、今年度は横田くみさんの拉致事件を取り上げることとなった。	今年度は北朝鮮当局による、横田めぐみさんの拉致事件を取り上げた。横田さん一家にふりかかった悲劇をわかりやすくアニメに構成したDVDを鑑賞し、拉致問題を人権課題の一つとして認識させること、被害者とその家族の心情を思いやることで自己の課題として考えさせることを目標とした。生徒たちは熱心に取り組む、真剣な感想が多く見られ、多様な生徒一人ひとりを大切に学習が実践できた。	インターネットへの接続環境が、携帯電話・スマートフォンなども含めて、多くの生徒にとって一般的な環境になりつつある。生徒アンケートの評価をみると6割程度の肯定的回答が見られ、支援の場としてインターネットが活用されていることがわかる。また、生徒の放送視聴によるeラーニング等の活用が増え、全体的に利用の幅が広がっている。この状態を今後より高められるよう、継続して取り組んでいきたい。
生徒アンケート	災害が発生したときの、校内の避難経路を知っていますか。			防災や交通安全に関する知識が身につきましたか。	青雲高校で、どのようにすれば単位が修得できるか、分かりやすいですか。	他の学校にはない入門科目(英語・数学・社会)があって、学習しやすいと思いますか。		事務室の窓口や電話での説明は分かりやすいですか。			人権HRを通して、人権意識が高まりましたか。		Seiun-Webスクール(インターネット上のRS個人票など)や青雲eラーニングは使いやすいですか。
生徒評価													
(5点)	1.94			2.77	3.55	3.65		3.40			3.19		3.31
学校関係者					通信制の学習システムを理解させ、基礎基本に戻って生徒の理解を助ける努力がなされていると思いますか。								生徒の学習への興味・関心を高めたり、スクーリング出席時間の不足を補ったりするために、インターネットや情報技術が活用されていると思いますか。
評価					・きめ細かい指導による学習システムの理解がなされていると思います。それに依って生徒も取り組みがし易く、基本から学ぶ点でも不登校だった子どもにも自信を持って学習の成果が得られると思います。更なる努力をお願い致します。 ・強く思います。クラスの数も多い中、個々の生徒に本当にきめ細かい対応がされていると感じました。RS個人票に書かれている「ひとことコメント」も、生徒さんの学習意欲に大きくつながると思います。 ・同窓会の一員として、学校の現場を離れておりますので、詳しいことは解りませんが、全体的に何とか生徒のためにという暖かい先生方の、又学校の努力が伺われます。								・情報は携帯などにもきめ細やかな配慮で送信されていると思います。常に青雲で学んでいるという生徒の自覚も生まれ、安心して意欲的に取り組もうとする一助となるツールだと思いました。 ・思います。 ・解りません。

平成25年度 兵庫県立青雲高等学校 学校評価シート

<p>今後の方策</p>			<p>災害発生時に生徒および教職員の避難がスムーズにおこなえるように努める。</p>				<p>本校が環境に影響を与えるもの一番は、「用紙の使用量」であるが、紙は生徒達との大切な通信ツールでもある。教育の質を落とすことなく教育活動を続けていくために、今後も教職員とともに創意工夫を続けて削減に取り組みたい。</p>	<p>電話や窓口での対応に配慮を必要とする生徒や、介助が必要な生徒についての情報の共有等心がける。奨学金や、給付金の案内など生徒の学習を支援できる情報を積極的に発信する。</p>	<p>毎月の安全点検により、不適箇所の迅速な整備に努める。救急処置の対応力を高めるための研修会を実施する。</p>	<p>生徒に健康診断の重要性を訴え、受診率のアップに努める。「保健だより」を通じて、疾病予防や予防接種の勧奨に努める。</p>	<p>4つのテーマを①デートDV②ケータイ・ネット社会と人権③働く私たちの人権(労働者の権利と人権)の3つに固定し、もう一つをタイムリーな題材を取り上げる。</p>	<p>初めて拉致問題を取り上げた。生徒の感想の結果を見ると、92%の生徒が「拉致問題を以前から知っていた。知っていた生徒の中には、なんとなく知っていたがここまで詳しくは知らなかった。拉致問題に対して68.9%の生徒が「人間として許されないことだ」、「こんな悲劇が起こらないような国際社会になってほしい」と答えていた。これを踏まえて、今後の人権教育を更に発展させていきたい。</p>	<p>技術社会の状況がめまぐるしく移り変わっていく中、通信教育を支える基盤となる学習環境をどう整備すべきかについては難題も多いが、Seiun Web Schoolや青雲eラーニング、ホームページなどを通じて、さらなる活用・発展をめざして努力したい。</p>
--------------	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	--	--	--